

家族が増えた一年は、
笑顔と会話が増えた
一年でした。



AFS Hosting Program AFS受入プログラム

ホストファミリーになりませんか

うけいれ AFS の受入プログラム

AFS Hosting Program

AFSの受入プログラムは、一般家庭での生活と地域の学校生活を基本とした、
高校生の異文化体験プログラムです。

「世界の高校生を家庭に迎えてみませんか？」

異なる文化や考え方の人と折り合いをつけながら仲よく暮らしていく「多文化共生」への注目
度が高まっています。家族みんなで異文化体験できるこのプログラムに、あなたも参加して
みませんか？



ホストファミリー体験記

ドイツからやってきた LENA

日本の文化と日本語を学びたい、とドイツからやってきたLENAはいつも笑顔で思いやりのある女の子です。同年齢の娘と一緒に高校に通学しています。学校では友達もすぐにできてクラスに溶け込んでいるようです。部活動は染色部に入部し、絞りの入った帯揚げと富士山をモチーフにした壁掛けを製作しました。絵を描くことが好きなレナの才能を発揮できた素敵な作品です。家庭ではお皿ふきを進んで手伝ってくれたり、娘と私にいつも「疲れてない？」と声をかけてくれたり、とても他人思いのレナです。日本食は「オイシイ！」と何でも食べます。特にラーメンと饅頭が大好物です。GW中には、3日続けてラーメンでした。

ある日買い物に行く車の中で、大きな富士山と目に馴染んできた街並みを見つめ「まるで故郷にいるみたい！」と呟いたのには驚きました。レナはここでの生活を、とても気に入っているようです。「小さい頃からの夢が今、叶ったの！」こう話すレナは日本の古い文化、新しい文化を知りたい、日本の料理を作りたい、日本語をすらすら話したいと大変意欲的です。きれいな発音なので是非美しい日本語を覚えて欲しいです。

娘とレナはとても気が合い、学校の事、ファッションや音楽等、毎日話がつきません。8月末にスウェーデンに留学する娘にとってレナとの生活は大変貴重で、この経験を生かして欲しいと思います。3人での生活はあと3ヵ月ほどですが、有意義で楽しい生活をおくりたいです。

2012年～2013年 ホストファミリー体験者

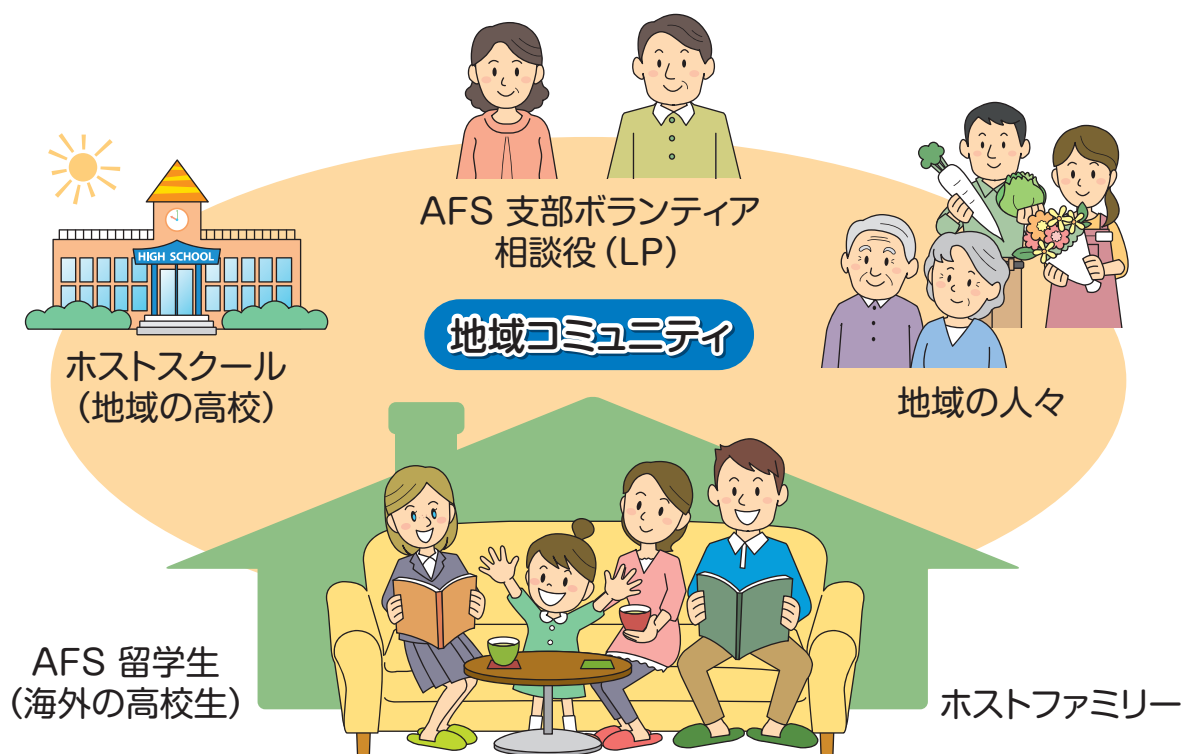
「留学生の成長を見守るのが楽しいんです」

AFSの活動を支えているのは、ボランティアです。留学経験者やその保護者、ホストファミリー、その他多くの賛同者の無償の貢献活動によって、この非営利プログラムは現在に至るまで半世紀以上続いています。

ボランティアが支える「交換留学」

日本には全国各地に約70の支部がありますが、メンバーは全員が報酬を受け取らないボランティアで、それぞれの知識と経験を生かしながら、地域コミュニティの中で留学生とホストファミリーを支えています。

支部ボランティアの中でも、特に留学生・ホストファミリーと密接にかかわるのは、LP（エルピー）と呼ばれる相談役です。LPはLiaison Person（リエゾン・パーソン）の略で、「間に入る人、繋ぐ人」という言葉の通り、プログラム期間中を通して留学生・ホストファミリー・ホストスクールを繋ぎ、情報を伝えたり、相談に応じたり、話し合いの場を設定するなど、必要に応じたさまざまな支援を行います。



世界5万人のボランティアがサポート

AFSは米国ニューヨーク市の国際本部を中心に、世界約60カ国のパートナー組織がネットワークで結ばれています。パートナー間の協力、連携を円滑にするため、国際本部はさまざまな調整を行い、同時に、全パートナーが守るべき国際基準を設けています。

現在日本では、社会人と学生あわせて約1,500人（ボランティア保険加入数）がAFSボランティアとして活動していますが、世界中のAFSネットワークをあわせるとその数は50,000人以上のほりります。各国のボランティアは、日本と同じように海外からの留学生を地域コミュニティに受け入れ、彼らがよりよい異文化体験ができるようサポートしています。



“日本人と同じように”暮らしています



留学生は、地域コミュニティ全体に受け入れられることで素のままの日本の暮らしを送ります。その生活を支えるのは、ホストファミリーを始めとするボランティアです。



留学生の直筆レポート

こんにちは。私の名前は マリア チャラハ。17さいです。
ペルー から来ました。私が日本にきた 大きな理由は日本の
国のいろいろな 日本語について 学びたかったからです。
私は、4ヶ月間 京都 にいます。私がここにいたすべての時間は
とても楽しいです。私のホストファミリー、ホストスクールとも
AFSのスタッフは私を助け、常に私の世話をしてくれています。
まいにち 紫野 高木交へ 行きます。私は日本人、学生とクラス
の中でも外に いるときも 楽しく しています。私は バレーボールと
E.S.S (English Speaking Society) クラブに入っています。バレーボールは
水曜日と木曜日と金曜日、土曜日と日曜日、ESSクラブは木曜日です。
高木交では 日本語の勉強会があります。四人の先生は 話せるのが
とても上手なので、日本語を たくさん 話せることができて
とても楽しいです。私は ぶんがさの クラスメイトとダンスをしました。

リアルな声を公開中!

ホームページから留学生やファミリーの動画コメント、ドキュメンタリービデオ、体験談などがご覧いただけます。





学校に行き始めてから、すぐ体育祭と文化祭の練習が始まりました。私のかよっているニュージーランドの学校では、同じ体操服ではないので、体操服、靴がみんなと一緒にとてもうれしく思いました。体育祭も文化祭も新しいけいけんで、とても楽しかったです。
(ニュージーランドの留学生)



「おぼん」にはホストファミリーの家族があつまりました。なくなったおじいさんが帰ってくるそうなのでみなで迎えました。はじめは悲しいことかなと思いましたが、そうではなく、子どもたちと遊んだり、おじさんやおばさんたちとおしゃべりをして面白かったです。
(インドネシアの留学生)



お正月の朝にはお弁当みたいお皿にいろいろの意味があるおせち料理を食べた。そして家族、お母さんの妹、お父さんのお父さんにお年玉をもらった。「年賀状かな」と思ったが、お金が入っていてびっくりした。本当に私のことを家族のように思ってくれて感動した。
(韓国の留学生)

「1年だけ」 のことじゃないんです!

AFSのプログラムは、留学生を受け入れた1年だけで終わるものではありません。日々の生活の中で育まれた絆によって、帰国後も家族同様の温かい交流が続きます。



2007年のタイ留学生

今年広島に帰ってきました。5年前とくらべていろいろ変わっていました。新しい建物がたくさんできました。僕は5年ぶりにホストファミリーや、先生たち、友達に会えてとてもうれしかったです。広島の町はたくさん変わりましたが、僕の心の中にある広島のことはいまも同じです。5年前に「僕は広島を愛している」と言いました。今も広島を愛していると言えます。タイに帰ったら、また日本に来るために、日本語を一所懸命勉強したり、一所懸命働いて貯金したりして日本にまた来たいと思います。



ホストファミリー体験者

9月中旬、米国から一通の招待状が届いた。「リリーが結婚するんだって!」リリーとの出会いは7年前。彼女は初めて受け入れた年間生で、当時は我が家の3人の子供達もまだ小さかった。彼女との生活は楽しいばかりではなかったが、帰国後は三度も里帰りしてくれる程、良い関係ができていた。家族と話し合い、私が家族全員のメッセージを預かり一人で渡米することになった。宿泊先はリリーのお姉さん宅。紅葉が美しい街を見物し、リリーの生家を訪ね、小さな結婚式に出席した。短い滞在だったが、みんなが私を家族の一員として温かく迎えてくれた。



1989年の
インドネシア留学生

私はインドネシアの大蔵省に勤務しておりますが、現在オーストラリアで博士号をやっています。今回京都大学で会議に出席する機会を得ました。その間、私の第2の故郷・福山を23年振りに訪問しました。私の最愛の家族、特に父・母・そしてお世話になった皆さまに再会した時、私がどれだけ幸せであったか書き尽くせません。そして私の母校、隣の星女子高等学校を訪問。担任の先生方やシスターも私の事を覚えてくださって感動しました。校内も案内して頂き、掃除の様子等見て、私が生徒であった時がつい昨日のようにフラッシュバック、正に“学園天国”でした。



「ひとつひとつの活

ホストファミリーや友だち・地域の人々との交流を通して、日本が留学生の「第二の故郷」となること、それが積み重ねられること。草の根で築かれるこの活動が、世界平和に繋がるとAFSは考えています。

AFSの目的

AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織です。より公正で平和な世界の実現に必要な知識、能力、理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的としています。



AFSの歴史

●戦時中の奉仕活動

AFSはAmerican Field Service（アメリカ野戦奉仕団）の頭文字に由来します。1914年、第一次世界大戦が勃発した時、パリにいたアメリカ青年たちが、自分たちも何かしたいと戦場から後方の病院へ傷病兵を輸送するボランティア活動を始めたのがその発端でした。彼らは輸送車を運転し、担架で傷病兵を運び、120万人以上の傷病兵の救援に尽力しました。

●交換留学制度が生まれた理由

2回の大戦を経験したボランティアたちは、他国の人たちとともに働くことからどれだけ多くのことを学んだか、お互いの違いを認めあい尊重しあうことがいかに大切であるか、に気づきました。そして悲惨な戦争の結果である傷病兵の救助活動よりも、「戦争を起こさない」という前向きな活動に取り組む決意をし、若者の留学制度を始めようという結論にいたりました。

●高校生交換留学制度のはじまり

そして、1947年には世界11カ国から52人の若者がアメリカに派遣されました。1971年には、これまでのアメリカのみとの交流からアメリカ以外の各国間での交換留学制度（マルチナショナル・プログラム）が発足し、世界約60カ国で、各国の留学生たちが異なる文化を体験する現在のようなプログラムに発展しました。

ホストファミリーの条件

- AFSの目的に賛同いただけるご家庭であること。
- 留学生を家族の一員としてボランティアで受け入れてくださるご家庭であること。三度の食事と生活スペースをご提供ください。（医療費、AFS行事参加費、学校通学費はAFSが負担し、小遣いや衣服は留学生が持参します。）

AFSの主な受入プログラム — 期間と出身国 —

1年	AFS年間受入プログラム	1年	文部科学省補助アジア高校生架け橋プロジェクト	6カ月	AFSセメスター受入プログラム	4週間	AFS日本語研修プログラム	留学生の出身国
春季受入 3月下旬～ 翌2月上旬	152名	春季受入 4月上旬～ 翌2月上旬	200名	春季受入 3月下旬～ 8月下旬	12名	夏季受入 6月下旬～ 7月下旬	60名	フルネイ、カンボジア、中国、香港、インドネシア、インド、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム、パキスタン、ブータン、バングラデシュ、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、ジャマイカ、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ベネズエラ、カナダ、アメリカ、オーストラリア、アルメニア、アゼルバイジャン、ベルギー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ベラルーシ、ブルガリア、クロアチア、チェコ、デンマーク、スペイン、エストニア、フィンランド、フランス、イギリス、ジョージア、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、アイスランド、イタリア、カザフスタン、キルギス、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロベニア、セルビア、スイス、スロバキア、スウェーデン、タジキスタン、トルクメニスタン、トルコ、ウクライナ、ウズベキスタン、ガーナ、南アフリカ
秋季受入 8月下旬～ 翌7月中旬	63名	秋季受入 ※2020年からは 春季受入のみ		秋季受入 8月下旬～ 翌2月上旬	14名	冬季受入 12月上旬～ 12月下旬	7名	
その他、ご自身に合った期間やプログラムを選んでご応募いただけますのでご相談ください。 来日後最初の1ヵ月程度を受入にご協力いただく「ウェルカム・ファミリー」や、 1週間程度、一時的にお預かりいただく「テンポラリー・ファミリー」も募集しています。								

※人数は2019年の実績数。出身国は1957年からの実績国です

動が、世界平和につながってる」

AFSのプログラム・活動

AFSではホストファミリーの他にも参加いただけるプログラム・活動があります。お気軽にお問い合わせください。

●海外留学プログラム

主に高校生を対象にした留学プログラム。世界約40カ国でホームステイしながら現地の学校に通う年間プログラムと、春休みや夏休みに英語圏の国を中心に語学研修やテーマ別研修に参加する短期プログラムがあります。

●国際交流キャンプ

主に中高生を対象に、各国留学生と校外で交流したり、ともに学んだりする機会です。サマーキャンプは毎年7～8月に日本各地で開催しています。

●ボランティア活動

社会人ボランティアは日本約70支部で、留学生・ホストファミリー・ホストスクールのサポート、国際交流イベントの企画・運営、選考試験などの手伝いをします。大学生ボランティアも東京・名古屋・大阪・福岡を中心にイベントやオリエンテーションの企画・運営を行っています。



お申込み～ホストファミリーとしての1年

ご相談受付

事務所やお近くの支部に、お気軽にお問い合わせください。説明会も開催しています。

家庭訪問

AFSの支部ボランティアが、プログラムの詳細をご説明します。

ホストファミリー オリエンテーション

留学生の来日前に、ホストファミリーになるご家庭を対象にオリエンテーションを実施し、不安や疑問にお答えします。

留学生向けオリエンテーション 来日直後/中間/帰国前

留学生滞在中は、毎月最低1回はAFSの支部ボランティアがホストファミリーと留学生にコンタクトをとり、お話を伺います。

お申し込み受付

挟み込みまたは裏面QRコードから「ホストファミリー申込書」をAFSまでお送りください。

マッチング・留学生の決定

双方の性格、趣味、家庭環境などを考慮したうえで、慎重に留学生と応募家庭とのホームステイの組み合わせを行います。

各種支部行事

留学生滞在中は、AFS支部の行事などにご参加ください。他の留学生やホストファミリーとの交流や情報交換の場になります。

歓迎会

送別会

帰国

ホストファミリーに関するQ&A

Q 外国語を話せる家族がいなくても大丈夫？

ご心配いりません。留学生は家庭・学校での生活を通じて日本語を覚えていきますから、むしろ日本語に日々接することが大切です。AFS支部ボランティアの担当者（LP）がおりますので、困った時にはいつでもご相談ください。

Q 共働きでもホストファミリーになれますか？

近年は共働きのホストファミリーも増えています。留学生は日本の高校生と同じように学校に通い、部活動に参加したり、友達と遊びに出かけたりしますので、常にお世話をしなければいけないと堅苦しく考えず、「高校生の家族が1人増えるだけ」とお考えいただき、ご家庭ごとの方法で交流を楽しんでいただければと思います。

Q 和風の家なので、海外の方には不便が多いかもしれません。

留学生は日本の生活を体験するために来日しますので、特別な設備は必要ありません。留学生自身に布団を敷いて寝てもらい、和式のお風呂を使うなど、ご家庭のルールをご説明のうえ、何にでもチャレンジさせてあげてください。留学生の部屋についても、共有するご家族と留学生の双方に歩み寄り姿勢があれば、同室でも問題ありません。

Q お弁当は毎日必要ですか？

お弁当は他の国にはあまりみられない、日本独特の文化といえますので、準備いただくと留学生も喜ぶことと思います。ただし毎回凝ったものを準備いただく必要はありません。毎日同じメニューでも、簡単なメニューでも、無理のない

範囲でご準備ください。ご準備が難しい場合は、留学生本人が家にあるものを自分で詰めて持参するようご指導ください。

Q 留学生の急病など、緊急時の対応は？

AFSでは、災害、事故、傷害、疾病などの緊急時に適切な処置がとれるよう世界各国共通の基準を設けています。緊急時には事務局職員とボランティアが連携して24時間体制で対応にあたります。

Q 留学生が病気・事故・けがをした場合の治療費は？

AFS生は、AFS国際本部、その他の契約による医療保険に加入していますが、3ヵ月を超えて日本に滞在する生徒には国民健康保険も適用されます。負担額は日本国民と同じ3割で、負担した医療費はAFS国際本部、その他契約している保険会社の医療保険でカバーされます。また、留学生自身の過失による賠償の発生に備え、第三者損害賠償責任保険にも加入させています。

Q 家庭の事情で受入の継続が困難になった場合には？

申込全期間を通して受け入れていただくことが原則ですが、転勤やご家庭の状況変化で受入の継続が困難な場合は家庭を替える（ファミリーチェンジ）ことがあります。また、異なる文化背景や相性の問題で、努力したにもかかわらず留学生との生活が円滑にいかず、家庭を替わった方が双方にとって望ましいとAFSが判断した場合にも行うことがあります。

全国のAFS支部

下記の全国67支部で留学生を受け入れています。

オホーツク／帯広／札幌／旭川／岩手／宮城／福島／茨城水戸／茨城つくば／栃木／群馬／新潟／上越／埼玉／京葉／東京
東京多摩／東京中央／東京練馬／東京城北／神奈川／北神奈川／湘南／鎌倉／長野南信／富山／福井／小松／金沢／岐阜
静岡／富士山／東海／名古屋北／名古屋南／東三河／西三河／知多／尾張／三重／滋賀／京都／大阪三島／大阪北／大阪東
大阪中央／大阪南／兵庫県／奈良／紀中／鳥取県／松江／出雲石見／岡山／尾三／東広島／広島／山口／愛媛／高知
福岡／博多／福岡南／大分／大分中部／大分南部／宮崎

(2021.4.1現在)

お問い合わせ

〈UNESCOオフィシャルパートナー〉
公益財団法人AFS日本協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-16 虎ノ門菅井ビル6階
E-mail: info@afs.or.jp



<https://www.afs.or.jp/>



ホストファミリー申込書



ホストファミリー募集説明会

支部連絡先